

都市の可視化を活用した まちづくり計画の検討

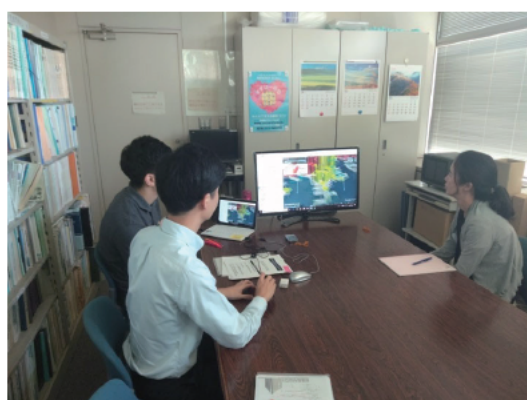
所属名 港区 都市計画課

i-都市交流会議2020

1

1. 実際に使ってみよう

まずは課内で都市の可視化を共有し操作してみました



- 都市構造可視化サイトからデータのダウンロード
- 可視化されたデータのグーグルアースへの表示
- 経年変化の表示
- 扱いが難しい3Dマウスも操作
- 他の自治体との比較 など

i-都市交流会議2020

2

2. 何が出来ののかを検討してみよう

都市の可視化を活用して何ができるのかを検討しました

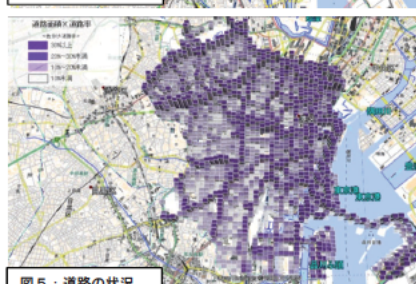
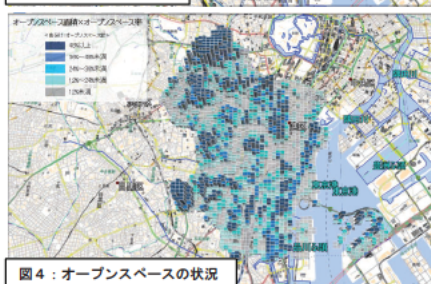
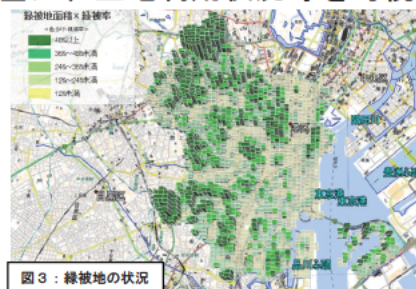


- 港区内では、地域のまちづくりの機運に応じて、都市計画マスタープランやまちづくりガイドライン等に則り、開発事業等が進められている。
- 一方、地区に課題を有しており、地元のまちづくりの機運が高いにも関わらず、個別のまちづくり計画が無いことからまちづくりの方向性が示されていない地区も見受けられる。
- そこで、港区の土地利用のGISデータを基に、複数の土地利用状況を可視化し、まちづくりの機運やバリアリー重点整備地区の指定状況などを考慮した上で、港区内で個別にまちづくり計画の策定が必要なエリアの検討を行う。

3. まちづくりに関する情報を可視化してみよう

土地利用に関する情報を可視化していただきました

- まちづくりに関わる土地利用の情報を100mメッシュごとに可視化
 ⇒港区の土地利用のGISデータを基に、土地利用状況等を可視化



補注：都市構造可視化計画、地理院地図を使用

3. まちづくりに関する情報を可視化してみよう

町丁目境も可視化し、エリアごとの課題や地域特性等を把握しました



図6：町丁目ごとの緑被地の状況



図7：町丁目ごとの未利用地の状況

補注：都市構造可視化計画、地理院地図を使用

- 可視化したデータの上に、町丁目境を重ねることで、エリアごとの地域特性や抱えている課題等を視覚的に実感することが出来た

例)

- ・緑被率については、白金台地区及び赤坂地区は比較的高いが、新橋地区や港南地区では低いことを視覚的に確認することが出来た。
- ・未利用地率については、虎ノ門地区や港南地区は比較的高いが、六本木地区や南青山地区では低いことを視覚的に確認することが出来た。

4. 可視化できない情報も検討してみよう

可視化できない検証項目（GISデータがない項目）も整理しました

- 可視化した土地利用のデータのみでまちづくり計画策定の必要性を検討することは難しい。そのため、可視化できない（GISデータがない）まちづくりに関する状況や地域特性等を整理

例)

- ・区内の都市計画決定状況
- ・地域危険度ランク
- ・まちづくりの機運 など
- ・国や都の上位計画の策定状況
- ・バリアフリー重点整備地域の指定状況

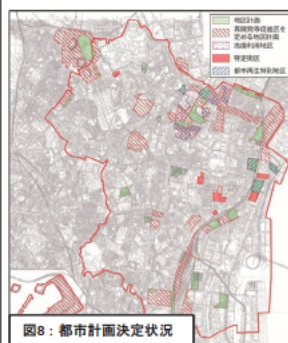


図8：都市計画決定状況

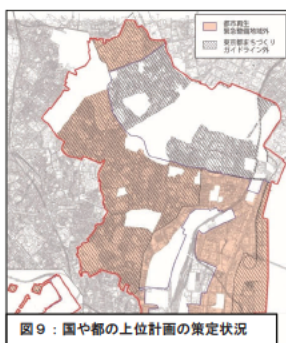


図9：国や都の上位計画の策定状況

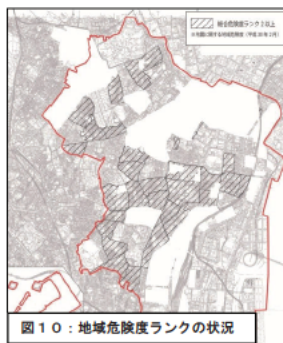


図10：地域危険度ランクの状況

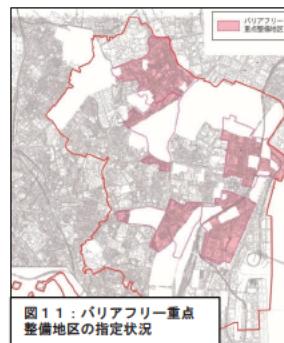


図11：バリアフリー重点整備地区の指定状況

5. 今後に向けて

- 現時点での状況
⇒土地利用に関するデータを可視化することで、地域の特性や課題等を誰もが分かり易く視覚的に示すことが出来た。ただ、現時点では都市の可視化を活用してまちづくり計画策定の必要性がある具体的なエリアの抽出までは至っていない。
- 今後の課題
 - ・可視化した項目の数値の大小だけでは、地域課題のレベルの比較検討は難しい。
(例えば、未利用地率では、空き地もあれば、土地利用転換中の土地もあるため、一概に未利用地率が高いからといって課題があるとは言えない)
 - ・可視化したデータと可視化できない検証項目とどのように組み合わせ、エリア抽出に反映するのか整理が必要
 - ・エリアを抽出するにあたり、課題レベルの点数化 など
- 上記の課題や新たな視点も踏まえ、引き続き、来年度以降も都市の可視化を活用し、区内でまちづくり計画策定が必要なエリアの検討に取り組んでいく。

港区

MINATO CITY



区 の 木

区 の 花



ハナミズキ

ミズキ科
北米原産 外来種
落葉広葉樹



アジサイ

ユキノシタ科
日本（関東南部）原産
落葉広葉樹（1.5～2.0 m）



バラ

バラ科
日本、中国、欧州原産
常緑落葉低木つる